

# 歴史遺産研究

Bulletin of the Department of Historic Heritage,  
Tohoku University of Art and Design

## 第14号

### 目次

#### 論文

何故「ムカサリ絵馬」は怖い話になったのか  
—山形県村山地方の供養習俗の変遷に関する一考察

山本 亜季 YAMAMOTO Aki (1)

出羽国村山郡観音寺村における  
山野利用の変遷

小関 美紗 KOSEKI Misa (23)

地方紙に映る1930年代  
—「山形新聞」の味の素広告を事例に

槇 麗 MAKI Urara (35)

天童市蔵増市川家文書目録

竹原 万雄 TAKEHARA Kazuo

後藤 彩佳 GOTO Ayaka (49)



TOHOKU UNIVERSITY  
OF ART & DESIGN

2020年

東北芸術工科大学

歴史遺産学科

東北芸術工科大学

歴史遺産研究

第14号 2020年

# 目次

Contents

---

## 論文

何故「ムカサリ絵馬」は怖い話になったのか  
— 山形県村山地方の供養習俗の変遷に関する一考察

山本 亜季 YAMAMOTO Aki ..... 1

出羽国村山郡観音寺村における  
山野利用の変遷

小関 美紗 KOSEKI misa ..... 23

地方紙に映る1930年代  
— 『山形新聞』の味の素広告を事例に

槇 麗 MAKI Urara ..... 35

天童市蔵増市川家文書目録

竹原 万雄 TAKEHARA Kazuo

後藤 彩佳 GOTO Ayaka ..... 49

---

## 2018年度 歴史遺産学科 卒業論文

### 《考古学》

- 阿相 純平 縄文時代における金環型球状耳飾  
佐藤 駿 里浜貝塚における集落動態の考察  
鈴木日南乃 土偶はなぜ壊れたのか？—山形県内3遺跡から見る土偶の破損状態  
河野 紗依 弥生時代中期の墓域の変遷—油田遺跡の再検討  
斉藤 紘輝 人為・自然営為判断のための一考察—中津川地域採集資料を事例に  
鈴木 智大 福島県における縄文時代の遺跡にて発掘された石鏃の石材についての時代推移  
堀江 夏歩 チモト部の変遷からみる仙台湾と福島県沿岸における漁撈文化の関係

### 《考古学》

- 佐竹 祐堯 上山市榑下宿墓地調査における個人墓地と集落形成の関係  
—時代的形式的変遷から見る墓地と榑下集落の関係  
手塚 由唯 「もの」の視点でみる関札—山形県上山市榑下地区を事例に  
守屋 日向 上山市榑下宿蔵座敷の時代的変遷

### 《歴史学》

- 三村 真心 秋田藩久保田城下町における米家督と家督破り  
檜 麗 地方紙に映る1930年代—『山形新聞』の味の素広告を事例に  
小関 美紗 出羽国村山郡観音寺村における山野利用の変遷  
柳澤 もも 山形五堰御殿堰の利用変遷  
三浦 敦美 戊辰戦争時における山形藩研究

### 《民俗・人類学》

- 牧野 文花 お酒は悪なのか—飲み会にみる人とお酒の付き合い方  
大沼 拓実 「自分買い」とは何か—現代日本における贈答意識の変化  
山本 亜季 何故「ムカサリ絵馬」は怖い話になったのか—山形県村山地方の供養習俗の変遷に関する一考察  
四方 菜央 「偶像」から「人間」へと変化したアイドル像—彼らに「留年」を選んだ女性ファン  
後藤 陸 「新しく創造された祭り」とその役割に関する一考察—山形県村山市富元地区「富本大祭」を事例に  
長井 康樹 「居合」における「排他性」に関する一考察  
柴田 諒嗣 「英雄」の娯楽化—キャラクター化された「英雄」を事例に  
佐藤 匠 日本海沿岸地域を襲った災害からの学び—山形県庄内地方飽海郡  
村上 輔 石造物群形成に至るまでのプロセス  
女川 涼 神楽の継承に関する一考察—牛袋法印神楽の現状から  
浜津 咲希 8.5水害からみえた水害対策とこれからの防災—福島県郡山市水門町、富久山町を例に  
五十嵐里帆 かつばはどこにいるのか？

## 東北芸術工科大学『歴史遺産研究』寄稿要項

1. 歴史遺産研究は東北芸術工科大学歴史遺産学科に関連する諸科学に関する論文・研究報告、調査報告等を掲載・発表することにより、学科教育と研究の発展に寄与するものである。
2. 歴史遺産研究に投稿することができる者は、以下の通りとする。1) 東北芸術工科大学の教職員(同客員、非常勤の教員を含む)、2) 東北芸術工科大学の名誉教授、3) その他、歴史遺産学科において適当と認められた者。
3. 原稿執筆における使用言語は日本語・英語を原則とする。
4. 寄稿する原稿には英文タイトルを添付する。
5. 原稿はA4判横書き、1頁2段組みで2,050字(25字×41行)とし、十分な余白を取る。(図、表、写真、図版などはそれぞれ別頁として準備する。さらにそれらのキャプションを別途準備する)。図版類の版下は1頁縦22cm×横14cmとする。
6. 原稿はパソコンで作成し、出力原稿2部(図表、写真等も含める)とCD等を添えて提出する。
7. 原稿の提出は11月末とする。
8. 原稿の提出は東北芸術工科大学歴史遺産学科とする。
9. 掲載した1原稿につき、別刷り50部までを無償とし、それ以上は筆者の負担とする。
10. 歴史遺産研究に掲載された論文等の著作権は、歴史遺産学科に帰属するものとする。

### 執筆者紹介

- 竹原 万雄 (東北芸術工科大学芸術学部准教授)  
山本 亜季 (東北芸術工科大学歴史遺産学科4年)  
小関 美紗 (東北芸術工科大学歴史遺産学科4年)  
楨 麗 (東北芸術工科大学歴史遺産学科4年)  
後藤 彩佳 (東北芸術工科大学歴史遺産学科4年)

東北芸術工科大学  
**歴史遺産研究** 第14号/2020

令和2年3月6日 発行

編集・発行 東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科

〒990-9530 山形市上桜田3-4-5

印刷 田宮印刷株式会社